2024年6月13日　山陽新聞　朝刊

第3種郵便物認可

部品加工のテクノス

総社に新工場 生産強化

精密部品加工のテクノス（総社市東阿曽）は、同市井尻野に新工場を整備する。見積もりを自動化する大手商社のオンラインサービスを介した受注が好調で、半導体や電気自動車（ＥＶ）分野の部品加工が増えていることに対応。設備の増強や作業スペースの確保で生産能力を引き上げる。

（伊東圭一）

新工場の完成イメージ

敷地約2900平方㍍を購入し、鉄骨平屋約1400平方㍍を建築。真壁工場（同市真壁、鉄骨平屋約300平方㍍）の機能を移管する。部品を加工するマシニングセンター（ＭＣ、複合工作機）は新規導入の8台と同工場から移す6台の計14台。同工場の21人を配置転換するとともに、10人程度を新規雇用する。

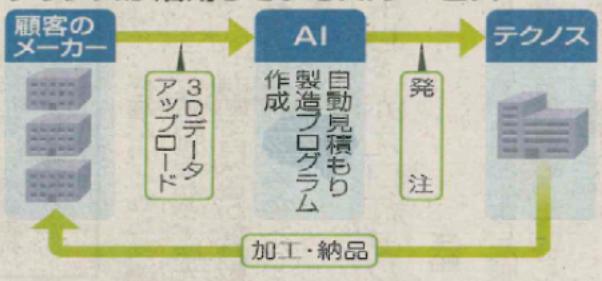
2月上旬に着工し、来年4月の稼働を目指す。投資額は約10億円。真壁工場は子会社が使う。

同社はアルミニウム部品の受託加工が主力。大手商社が機械メーカー向けに展開する部品調達サービスに、部品を供給する協力会社として2019年から参画している。同サービスは、メーカーが外注する部品の3Dデータをアップロードすると、人工知能（AI）が形状や加工の工程を解析して見積もりを即座に算出。製造プログラムも作成し、協力会社に発注する。

テクノスによると、見積もり作業が不要な上、製造プログラムを基にＭＣの動作設定などを省力化できるため、短納期化が図れる。部品によっては受注翌日の出荷も可能で、半導体やＥＶモーターの製造装置向けなどの加工量が増えたという。同サービス関連事業の拠点である真壁工場が手狭になったため、新工場整備を決めた。同事業での売上高を現在の4倍の年1億円に高める計画。※

藤井範之社長は「ＡＩサービスの活用で生産性が向上した。今後もデジタル技術の導入を進めて納期などの競争力を強化し、慢性化する人手不足にも対応していきたい」と話している。

同社は04年設立、資本金1千万円、連結売上高約13億円（23年10月期）、グループ従業員約100人。現在は総社市内3カ所に工場を持つ。



春へ来稼働

半導体、ＥＶ向け受注増

※　売上高は月１億円に高める計画